

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																																								
中央情報専門学校	昭和62年1月30日	岡本 比呂志	〒352-0001 埼玉県新座市東北2-33-10 (電話) 048-474-6651																																																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																																								
学校法人 中央情報学園	昭和62年1月30日	理事長 岡本 比呂志	〒352-0001 埼玉県新座市東北2-33-10 (電話) 048-474-6651																																																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																																																							
工業	専門課程	IT・Web学科	平成28年文部科学省 大臣告示第19号																																																								
学科の目的	IT業界およびITを活用する産業界と連携し、産業界の要望・人材ニーズを反映させた職業実践のかつ専門的な教育課程により、最新のかつ高度なIT知識・技術を身に着けたIT技術者を育成する。																																																										
認定年月日	平成 26年 3月 31日																																																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																																				
2	昼間	1728時間	792時間		936時間																																																						
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																																						
140人	178人	172人	5人	2人	7人																																																						
学期制度	■前期:4月1日から9月30日 ■後期:10月1日から翌年3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席率および平常点、期末試験で秀、優、良、可、不可の5段階評価																																																							
長期休み	■学年始め:4月1日から4月8日 ■夏季:8月1日から8月31日 ■冬季:12月21日から1月7日 ■学年末:3月21日から3月31日		卒業・進級 条件	■出席率 80%以上 ■成績 全単位の80%以上 ■進級条件 39単位以上取得 ■卒業条件 78単位以上取得																																																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任教員の個別訪問、電話、メール等で親身に問題解決を行う		課外活動	■課外活動の種類 埼玉県情報サービス産業協会主催「ICTコンテスト」への参加、学内スポーツ大会 ■サークル活動: 無 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)																																																							
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 情報産業、サービス産業、製造業 ■就職指導内容 個別進路相談、学内企業説明会および選考会、合同説明会・就職フェアへの参加 ■卒業者数 : 80 人 ■就職希望者数 : 70 人 ■就職者数 : 69 人 ■就職率 : 98 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 90 % ■その他 ・進学者数: 1人 ・帰国: 4人 ・その他: 2人		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>ITパスポート</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>Oracle Java Silver</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>Javaプログラミング能力検定2級</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>Javaプログラミング能力検定3級</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>情報活用試験3級</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>情報処理技能検定 表計算 準2級</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>情報処理技能検定 表計算 3級</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>iBut(インターネットベーシックユーザーテスト)</td> <td>③</td> <td>80人</td> <td>79人</td> </tr> <tr> <td>日商簿記2級</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>日商簿記3級</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>秘書技能検定3級</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	③	10人	1人	ITパスポート	③	1人	1人	Oracle Java Silver	③	1人	1人	Javaプログラミング能力検定2級	③	2人	2人	Javaプログラミング能力検定3級	③	1人	1人	情報活用試験3級	③	6人	2人	情報処理技能検定 表計算 準2級	③	7人	5人	情報処理技能検定 表計算 3級	③	4人	2人	iBut(インターネットベーシックユーザーテスト)	③	80人	79人	日商簿記2級	③	1人	1人	日商簿記3級	③	2人	2人	秘書技能検定3級	③	1人	1人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																																								
基本情報技術者試験	③	10人	1人																																																								
ITパスポート	③	1人	1人																																																								
Oracle Java Silver	③	1人	1人																																																								
Javaプログラミング能力検定2級	③	2人	2人																																																								
Javaプログラミング能力検定3級	③	1人	1人																																																								
情報活用試験3級	③	6人	2人																																																								
情報処理技能検定 表計算 準2級	③	7人	5人																																																								
情報処理技能検定 表計算 3級	③	4人	2人																																																								
iBut(インターネットベーシックユーザーテスト)	③	80人	79人																																																								
日商簿記2級	③	1人	1人																																																								
日商簿記3級	③	2人	2人																																																								
秘書技能検定3級	③	1人	1人																																																								
中途退学 の現状	■中途退学者 27 名 ■中退率 14 % 平成29年4月1日時点において、在学者181名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者154名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 就職、経済的理由のため ■中退防止・中退者支援のための取組 担任および生活指導担当者が面談し、教職員全体で親身になって生活相談にのる。																																																										
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特に優秀な学生を就職や進学の中で支援する学園奨学金制度あり (出席率・成績等により、学費の50%または25%の奨学金を給付) ・留学生学費減免制度あり ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																																																										
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																																																										
当該学科の ホームページ URL	http://cmcc.ac.jp/course/it-web/																																																										

※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。
 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの
 ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの
 ③その他(民間検定等)
 ■自由記述欄
 2017年9月富士通システムズウェブテクノロジー社による「負荷分散環境構築演習」実施
 2017年12月学修成果発表会(志木市民会館パルシティ)
 2018年3月卒業制作発表会(志木市民会館パルシティ)
 2018年5月富士通フォーラム2018に参加

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校の教育課程編成においては、(公社)埼玉県情報サービス産業協会との連携のもと、企業等で必要とされる人物像、人材要件を明確にし、また、情報サービス産業の動向や今後の方向性を見極めながら、2年間のカリキュラム編成を行う。本校教務会議規程に従って、教育課程編成委員会は、学校自己点検・自己評価の状況、その他学校が提供する情報、カリキュラムの実施状況など総合的に検討し、(公社)埼玉県情報サービス産業協会会員企業へのアンケート調査・ヒヤリング等を行うなど産業界の動向や産業界で必要とされる人材ニーズを見極めて、当該年度の教育課程の改善と次年度の教育課程編成の理念および基本方針を策定する。教務会議では、その基本方針と改善提案のもと、今年度の教育課程の改善と次年度以降のカリキュラム編成を具体化させることにより、情報サービス産業における実務に関する知識、技術及び技能を教授し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目指す。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程の編成は、本校教務会議規程および教育課程編成委員会規程に基づき、教育課程編成委員会において、産業界団体の委員、企業の委員、校長、教務主任、学科長などが参加し、実施年度の教育課程の評価・改善と次年度の教育課程編成の基本方針を決定する。

各年度において、企業等の委員が参加する教育課程編成委員会を2回以上開催し、第一回委員会では、前年度の教育課程の実施状況について評価・検討し、改善策の検討を行う。第二回委員会は、当該年度の教育課程の評価・改善を行うとともに、企業等の委員等から行われる最新ビジネスの動向と企業等で必要とされている人材像や人材要件の提示、授業科目および内容の提案、専門教員の要件および派遣提案、実習を取り入れる場合の企業等の提案、卒業後の人材受け入れ先企業の提案などを受け、次年度教育課程編成の理念と基本方針を策定し、そのもとで教務会議は、次年度の教育課程を編成し、実行する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
木田 徳彦	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 理事 株式会社インフォテック・サーブ 代表取締役	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	IT・Web学科 ①
林 義行	NPO法人JASIPA 理事長 株式会社ビーエスシー 代表取締役	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	ビジネスデザイン学科①
西村 俊郎	オフィス・プレクサス 代表 NECビッグロブ株式会社嘱託 元執行役員常務	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	IT・Web学科 ③
増古 恒夫	増古技術士事務所 所長 公益社団法人日本技術士会 埼玉県支部長 パシフィックシステム株式会社相談役 元代表取締役社長 公益社団法人 埼玉県情報サービス産業協会 元副会長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	IT・Web学科 ③
腰原 貞利	富士通エフ・アイ・ピー・システムズ株式会社 顧問	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	IT・Web学科 ③
関 次良	株式会社ベジコップ グローバルソリューション事業部 ゼネラルマネージャー	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	ビジネスデザイン学科③
土屋 毅	株式会社エムアンドアール グローバル事業部 次長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	ビジネスデザイン学科③
岡本 比呂志	学校法人中央情報学園 理事長 中央情報専門学校 校長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	
岩田 俊裕	中央情報専門学校 副校長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	
松本 彰仁	学校法人中央情報学園 事務部長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	
堀切 達也	学校法人中央情報学園 産学連携推進部長 未来デジタル研究所長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	
小菅 厚	学校法人中央情報学園 学園教育開発推進部主幹	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	
斉藤 由美子	中央情報専門学校 教頭 校務運営主査	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	
安宅 伸治	中央情報専門学校 教務課長、情報系学科学科長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	
富樫 素子	中央情報専門学校 ビジネスデザイン学科学科長 産学連携・就職支援主事	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	

山本 三雄	中央情報専門学校 非常勤講師 情報処理学会会員／日本教育工学会会員／東京大学大学院 総合文化研究科広域システム科学系博士後期課程単位取得	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	
-------	--	------------------------------	--

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回以上

(開催日時)

第1回 平成30年8月8日(水) 15:15～17:00

第2回 平成31年3月15日(金) 15:00～17:00(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

Pythonの引き合いが多く、AIに限らずWebアプリケーションにおいてもPythonで実装するといった話もあり、Pythonをカリキュラムに取り入れると良いとの企業等の委員から意見を受けて、AIプログラミング科目を設置し内容にPythonを盛り込んだ。また、IOTの注目度が高く、「プログラミングができる」だけではなく、実際にモノを動かす経験をさせると良いとの企業等の委員から意見を受けて、IOTプログラミング科目を設置し、Raspberry Piを使った組込み技術を盛り込んだ。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

IT業界およびITを活用する産業界のニーズに合った実践的かつ専門的な教育課程を行うために、カリキュラム・シラバスの作成、授業方法・実習の提案、講師派遣、教員研修、学生評価について協定書(業務委託契約)を受託企業と締結し実施する。実施にあたっては、教務会議のもと、受託企業との定期的な報告会議をもち、進捗の管理と課題解決の体制をとる。担当科目には専任教員を配置し、授業内容の評価、改善を逐次行うとともに、担当科目の専任教員は、企業等との連携による研修による専攻分野における実務の技能向上を図る。学生評価は、企業による評価を受けて、担当科目の専任教員が行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

1.株式会社CADネットワークサービスとの連携

「プログラミング実習2」科目において、株式会社CADネットワークサービスから派遣される講師により、実習・演習形式で、GDLプログラミングを中心に、企画、仕様書作成、設計書作成、プログラム実装、試験書作成・実施などを学習する。

株式会社CADネットワークサービスと協定を締結し、実習前に専任教員と打ち合わせで、①授業内容および授業方法、課題等の授業プランを作成し、②それぞれの技術の習熟度を評価できる評価シートを作成する。実習においては、株式会社CADネットワークサービスからの講師派遣により、実習を行うが、学校側の専任教員が実習の円滑な進行をサポートするなど連携して進める。実習修了時には、株式会社CADネットワークサービスの派遣講師が、評価シートをもとに、各学生のスキル評価を行う。教材・テキスト、および、その他実習に必要な施設・設備等は、学校が用意する。

2.富士通エフ・アイ・ピーシステムズ株式会社との連携

「職業とキャリア」科目において、サービス産業界における400店舗以上との取引実績とノウハウを基にした、求められるスキルを中心に、仕事の専門用語・接客スキル・営業スキルを実習形式で学ぶ。校内において、富士通エフ・アイ・ピーシステムズ社からの講師派遣のもと行う。

富士通エフ・アイ・ピーシステムズ株式会社と協定を締結し、実習前に専任教員と打ち合わせで、①授業内容および授業方法、課題等の授業プランを作成し、②それぞれの技術の習熟度を評価できる評価シートを作成する。演習においては、富士通エフ・アイ・ピーシステムズ株式会社からの講師派遣により、演習を行うが、学校側の専任教員が演習の円滑な進行をサポートするなど連携して進める。演習修了時には、富士通エフ・アイ・ピーシステムズ株式会社の派遣講師が、評価シートをもとに、各学生のスキル評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
プログラミング実習2	ネットワークプログラミングを学習し、サーバサイドのソフトウェアを開発する。データベースやWebと連携させ、また、セキュアなシステムを構築する。	株式会社CADネットワークサービス
職業とキャリア	講義だけでなく職業人講話・職場見学などから様々なビジネスプランの特徴を理解し、自己のキャリアを設計できる能力を養う。	富士通エフ・アイ・ピーシステムズ株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員に対する研修は、当校研修規程に基づいて、教務会議が、①専攻分野等における実務に関する研修、②授業方法・生徒指導など教員の資質向上に関する研修、③学校評価・マネジメントなど学校運営に関する研修と研修内容を3分類し、教員評価にもとづき、業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて、必要な研修を各教員に計画的に実施する。

専攻分野に関する研修においては、連携企業から講師を招いて校内で実施する研修と連携企業の研修会に専攻分野にかかわる教員が参加する研修で実施する。

教務会議は、上記方針のもと、教員に対する研修の年間計画を策定し、外部の研修に参加する教員をサポートし、その研修内容を参加した教員の校内報告会などで他の教員と共有し、教員の資質向上に向けて、組織的、計画的に実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

対象	連携内容	期間
日本語教員	日本語教員勉強会(LT会) 専任教員に必要な知見とスキルの向上 (東京三立学院)	2017.6.3
主任教員	平成29年度新任主任教員研修 新任の日本語教育機関の主任教員として必要不可欠な知識・能力等に係る研修 (日本語教育振興会)	2017.6.14～16
管理者・教員	埼玉新聞 経営トップセミナー 「埼玉の企業が日本を元気にする」を合言葉に世界的に有名なコンサルティング会社、(株)ローランドベルガーの長島聡社長を招き「リーダーにとってのインダストリー4.0とは？」の講演を聴く (埼玉新聞社)	2017.7.5
ビジネス系教員	販売士講座担当向け販売士育成講習会 販売士2級・3級取得に向けてのハンドブックのポイントや、リテールマーケティング(販売士)検定試験の傾向と受験に向けた対策について (一般社団法人日本販売士協会)	2017.8.3
教員	広報担当者向けマーケティング研修 「学校マーケティング」を活用して自校の強み、特徴でアプローチする 新規入学者・入学検討者を獲得・増員するために必要な「学校マーケティング」の基礎学習と「競合他校優位性の理解、自校の強み・特徴を訴求する潜在的受験生の探し方とアプローチ方法の学習」 (全国専門学校情報教育協会)	2017.8.4
教員	日本情報処理検定協会主催講習会 情報処理技能検定試験2級以上の解答方法や採点基準に関する講習会 (日本情報処理検定協会)	2017.9.2
管理者・教職員	「これからの日本語教育と外国人留学生の人材活用を考える」～日本語教育推進基本法制度に向けて～ 日本語教育推進基本法制定に向けた情報提供及びシンポジウムの実施 (一般社団法人全国各種学校日本語教育協会)	2017.10.2
IT系教員	ICTイノベーションフォーラム2017 情報通信技術の研究開発成果を活用し、未来を拓くイノベーションの創出を図るため、最新の研究開発動向や総務省による新たな研究開発施策の検討状況を紹介 (総務省)	2017.10.3
IT系教員	センサを活用したIoTアプリケーション開発技術 (埼玉県情報サービス産業協会)	2017.11.9～10
IT系教員	実践ソフトウェア設計技法 (埼玉県情報サービス産業協会)	2017.12.14～15
管理者・教職員	専修学校フォーラム2018 テーマ「教育×AI」～AIは教育現場にどのような影響をもたらすのか～ (一般社団法人全国専門学校情報教育協会)	2018.2.8～9

②授業方法・生徒指導など教員の資質向上に関する研修等

対象	内容	期間
教員	2017年度 留学生メンタルヘルス支援シンポジウム 留学生の心身の健康～睡眠を考える～ 留学生と日本人学生の睡眠問題について比較研究の成果を確認し、留学生の心身の健康を考え日頃の学生指導に役立てる	2017.7.22
教員	平成29年度第一回研修会 外国人犯罪の情勢や専門学校・大学日本語教育機関の意見交換会	2017.7.24
中堅教員	新任指導力(組織コーチング、メンタリング) 中堅教員にとっての役割とは何かを知り、新任の指導育成のための目標管理や新任の能力を引き出すための適切な指導助言ができるようになる	2017.8.1～2
日本語教員	日本語学校教育研究大会 学生の指導及び支援並びに実践的な展開能力についての研究協議を行い、教員の資質向上を図る	2017.8.7～9
教員	学生の主体的学びを引き出すためのインストラクションスキル向上研修 学生の主体的な学びを引き出すため、「授業準備スキル」「授業対話スキル」「授業伝達スキル」の3つを実践を通して理解する。	2017.8.21～22
教員	教育・指導力向上 (ファシリテーションの効果を実感する体験学習) 「ラボラトリー方式の体験学習について理解を深め、教員自らがファシリテーションを体験する。	2017.8.24～25
キャリア教育担当教員	就職支援担当者向け「キャリア支援力向上研修」 学生の主体性と能動性を引き出す就職支援とは 学生のキャリア指導において、学生主体性、能動性を引き出しながらゴールに向けて支援できるような指導者を目指す。就職支援担当者の役割を学び個別指導、面談の実施から現場で実践を試みる。	2017.8.25
教員	専門学校教員対象 メンタルヘルス対応力向上研修 教員がメンタルヘルスの基礎知識を身につけ、発生時に正しい初期対応が取れるようになることを目指し、精神疾患、発達障害を理解し、初期対応を学ぶ。	2017.8.28～29
担任教員	教員のキャリアデザインワークショップ (これからの専修学校を担う自立型教員育成研修) 教科指導やクラス運営を経験する中で、更に教育指導力を高め、自立的な将来設計を行い、計画に基づくアクションプランニングを行う。	2017.9.27～29
キャリア教育担当教員	専門学校留学生就職指導担当者研修会 広報・優秀な外国人留学生の掘り起し、在籍管理、卒業後の国内定着支援等留学生の入り口から出口までの総合的・戦略的な施策の推進について、就職指導担当者を対象とした研修会 (一般財団法人職業教育・キャリア教育財団)	2018.2.5
教員	生活指導担当者研修 日本語教育機関の学生の生活指導者向け研修 (日本語教育振興協会)	2018.2.8～9
教員	JaLSA教育・文化講話会 最近の外国人留学生の犯罪について(警視庁による講演) (全国日本語学校連合会)	2018.2.20
教員	ロジカルシンキングを活用した資料作成講座 自己の思考プロセスを明確化、伝えたい結論を相手に分かりやすく伝えるためのロジック構築方法を学ぶ (株式会社宣伝会議)	2018.3.21
教員	平成29年度第二回研修会 外国人犯罪の情勢や専門学校・大学日本語教育機関の意見交換会	2018.3.22

③学校評価・マネジメントなど学校運営に関する研修等

対象	内容	期間
管理者・教職員	JaLSA教育・文化講話会 警視庁組織犯罪対策1課による最新の留学生犯罪に関する説明の実施	2017.5.26
専修学校設置者	専門学校の振興にかかる研究会 新たな職業分野分類への取組。専門学校及び専門職大学に共通する課題	2017.7.3
専修学校設置者	第49回SMBCToppセミナー 「日本産業の新時代戦略～いま何を考え、何をなすべきか」を全体テーマとし、有識者講話	2017.7.10

管理者・教職員	スクールプライバシーマーク制度内部監査員養成研修会 職業実践専門課程を対象にSPマーク制度の内部監査員を養成する	2017.9.21
管理者・教職員	ディープラーニング 深層学習(ディープラーニング)の基本的な原理の理解。誤差逆転伝播法、確率的勾配降下法などの深層学習の原理の説明 (株式会社情報機構)	2017.10.6
管理者・教職員	管理者研修会 「専門職大学・専門職短期大学の設置基準その他政省令・告示等ならびに申請手続き等について」 「専門学校の振興策等を巡る動向について」	2017.10.23
管理者・教職員	第59回南関東ブロック会議 文科省、都道府県からの報告。専修学校業界に係る講演会 (全国専修学校各種学校総連合会)	2017.10.27
管理者・教職員	専門職大学・短期大学セミナー 専門職大学の制度化と設置申請の実務について (株式会社日本ドリコム)	2017.12.20
管理者・教職員	大学設置等に関する事務担当者説明会 大学の設置認可申請等に関する法令の改正内容や申請書類の変更等、適切な事務処理に関わる事項の周知を図る (文部科学省高等教育局高等教育企画課大学設置室)	2017.12.22
管理者・教職員	専門職高等教育の質保証 国際シンポジウム 文部科学省委託事業。「オーストラリアにおける職業教育訓練の規制」「高等教育質保証:ヴェトナムからの期待」等 (一般財団法人専門職高等教育質保証機構)	2018.1.17
管理者・教職員	私学教育振興研修会 新井邦二郎先生(筑波大学名誉教授、東京成徳大学・東京成徳大学院学長)による講演会 (埼玉県私立学校総連合会)	2018.1.31
管理者・教職員	学校法人のガバナンス、コンプライアンス・リスクマネジメントの法的対策と賢い対応 文科省「私立大学等の振興に関する検討会議」での最新の議論等を踏まえながら、学校法人のガバナンス、コンプライアンス・リスクマネジメントに関する課題と今後の対応策を詳説 (日本計画研究所)	2018.2.19
管理者・教職員	職業実践専門課程の第三者評価フォーラム2018 文部科学省委託事業。第三者評価システム構築検討状況報告等 (特定非営利活動法人私立専門学校等評価機構)	2018.2.28
管理者・教職員	専修学校グローバル化対応事業成果報告会 専門学校留学生の戦略的受入推進事業成果報告会 (一般財団法人職業教育・キャリア教育財団)	2018.3.6
管理者・教職員	文部科学省・厚生労働省平成30年度関係予算及び関連施策に関する説明会 (全国専修学校各種学校総連合会 全国学校法人立専門学校協会)	2018.3.14
管理者・教職員	第24回専門学校教育研究会 「専門学校の振興に向けて～社会人の学び直し」 (東京都専修学校各種学校協会)	2018.3.19

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

対象	連携内容	期間
教職員	“ネット社会の歩き方”情報モラルセミナー 情報モラル指導法 情報モラルの分かりやすい伝え方を学習する (埼玉県消費生活支援センター、埼玉県教育委員会)	2018.7.23
教員	日本情報処理検定協会主催講習会 情報処理技能検定試験2級以上の解答方法や採点基準に関する講習会 (日本情報処理検定協会)	2018.7.31
ビジネス系 教員	販売士講座担当教員向け販売士育成講習会 教員を対象に販売士3級・2級の取得に向けてのハンドブックのポイントや、リ テールマーケティング(販売士)検定試験の傾向と受験に向けた対策 (一般社団法人 日本販売士協会)	2018.8.2
教員	広報担当者向けセミナー これからの学校広報を考える 学生のSNS活用事情、SNSのそれぞれの特徴を知り、AI基礎知識とチャット ボットの現状から広報活動など用途を幅広く学ぶ。 (一般社団法人 全国専門学校情報教育協会)	2018.8.7
IT系教員	Javaシステム開発セミナー インフォテックサーブの教材を基に、Javaシステム開発指導者向け講座にて IT企業向けの技術を学習する。 (株式会社インフォテック・サーブ)	2018.8.20
IT系教員	情報分野教員のためのAI(人口知能)・機械学習の活用技術研修会 今後、情報システムのあらゆる領域に取り入れられ、活用されるAIについて、 今必要とされるAI、機械学習等の技術を学習する (一般社団法人 全国専門学校情報教育協会)	2018.8.28～29
ビジネス系 教員	日商簿記検定専門学校向け改正セミナー 日商簿記検定の改正内容に係るセミナー (TAC)	2018.8.31

② 指導力の修得・向上のための研修等

対象	内容	期間
教員	平成30年度第一回研修会 外国人犯罪の情勢や専門学校・大学日本語教育機関の意見交換会	2018.7.27
教員	予防教育のための留学生メンタルヘルス支援セミナー 留学生のメンタルヘルスを学ぶ講演と、教職員が企画する留学生がメンタル ヘルスを学ぶための講演会・イベントを案内する (公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター)	2018.8.1
教員	アクティブラーニング・産学連携教育におけるPM入門 当事者としての共通言語としてのプロジェクトマネジメント知識を学ぶ。計画 作業の一部を体験する。 (一般社団法人 全国専門学校情報教育協会)	2018.8.21
教員	体系的カリキュラム・シラバス作成(インストラクション・デザイン) 学生に分かりやすく効率的に学べるカリキュラム・シラバスを作成する手法と してインストラクショナル・デザインを学ぶ (一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団)	2018.8.27～28

③ 学校評価・マネジメントなど学校運営に関する研修等

対象	内容	期間
管理者・教 職員	第31回全国経済同友会セミナー 「次世代につなげる輝く日本を目指して～明るく希望に満ちた社会の構築～」 テーマのセミナー (公益財団法人 経済同友会)	2018.4.19～20

管理者・教職員	「第三者評価システム構築報告会」 専門学校「職業実践専門課程」における学修成果の定義と第三者評価の方法 (私立専門学校等評価研究機構)	2018.6.27
管理者・教職員	第50回SMBCToppセミナー 「未来に向けて～経営環境の革命的シフトにどう対応するか～」をテーマに 有識者の講演 (SMBCコンサルティング)	2018.7.27
管理者・教職員	平成30年度専修学校教育研究協議会 専修学校行政に係る課題に関する都道府県担当者向け研究協議(傍聴) (文部科学省)	2018.8.9

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

業界団体・企業、高等学校等の役職員及び当学園関係者から構成される学校関係者評価委員会を設置し、委員会において、当学園の自己点検・自己評価委員会が、「専修学校における学校評価ガイドライン」(文部科学省:平成25年3月)及び「学校法人中央情報学園における学校評価に関する要綱」(学校法人中央情報学園:平成24年6月1日)に基づいて取りまとめた中央情報専門学校学園自己点検・自己評価報告書の評価し、学校運営に関する改善のための助言及び支援を行うことを基本とする。委員会では、各年度において、前年度自己点検・自己評価報告書の説明、評価、検討を行う。その後、学校関係者評価報告書をホームページにてその内容を公開するとともに、改善提案を自己評価改善方策の検討において活用し、次年度の重点目標の設定や具体的取組の改善を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標 a. 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか b. 学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか c. 社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか d. 学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか e. 各学科の教育目標、育成人材像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか
(2) 学校運営	(2) 学校運営 a. 目的等に沿った運営方針が策定されているか b. 運営方針に沿った事業計画が策定されているか c. 運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか d. 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか e. 人事、給与に関する規定等は整備されているか f. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか g. 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか

(3)教育活動	<p>(3)教育活動</p> <p>a. 教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか</p> <p>b. 教育理念、育人人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</p> <p>c. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</p> <p>d. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</p> <p>e. 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか</p> <p>f. 関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか</p> <p>g. 授業評価の実施・評価体制はあるか</p> <p>h. 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか</p> <p>i. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</p> <p>j. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</p> <p>k. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか</p> <p>l. 関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか</p> <p>m. 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか</p> <p>n. 職員の能力開発のための研修などが行われているか</p>
(4)学修成果	<p>(4)学修成果</p> <p>a. 就職率の向上が図られているか</p> <p>b. 資格取得率の向上が図られているか</p> <p>c. 退学率の低減が図られているか</p> <p>d. 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</p> <p>e. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</p>
(5)学生支援	<p>(5)学生支援</p> <p>a. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか</p> <p>b. 学生相談に関する体制は整備されているか</p> <p>c. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</p> <p>d. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか</p> <p>e. 課外活動に対する支援体制は整備されているか</p> <p>f. 学生の生活環境への支援は行われているか</p> <p>g. 保護者と適切に連携しているか</p> <p>h. 卒業生への支援体制はあるか</p> <p>i. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか</p> <p>j. 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか</p>
(6)教育環境	<p>(6)教育環境</p> <p>a. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</p> <p>b. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</p> <p>c. 防災に対する体制は整備されているか</p>
(7)学生の受入れ募集	<p>(7)学生の受入れ募集</p> <p>a. 学生募集活動は適正に行われているか</p> <p>b. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</p> <p>c. 学納金は妥当なものとなっているか</p>
(8)財務	<p>(8)財務</p> <p>a. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</p> <p>b. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</p> <p>c. 財務について会計監査が適正に行われているか</p> <p>d. 財務情報公開の体制整備はできているか</p>

(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守 a. 法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか b. 個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか c. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか d. 自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献 a. 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか b. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか c. 地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	(11)国際交流 a. 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行われているか b. 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか c. 留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか d. 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

・「総合力テスト」については、企業が求める人材スキル判定としてとてもよい試みとの評価を得て、実施頻度を前期末・後期末とし、継続的にデータを積み上げていくこととした。

・社会人の学び直しの受入れとして埼玉県の委託訓練としての長期硬度人材育成コースを受託した。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
倉橋 政道	公益財団法人 日本教育公務員弘済会 顧問 元埼玉県立浦和高等学校長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	高校
木田 徳彦	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 理事 株式会社インフォテック・サーブ 代表取締役	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	企業等委員
西村 俊郎	オフィス・プレクス代表 NECビッグローブ株式会社 元執行役員常務	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	企業等委員
増古 恒夫	パシフィックシステム株式会社相談役 元代表取締役 公益社団法人 埼玉県情報サービス産業協会 元副会長	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 平成30年8月28日公開

URL:<http://www.ccmc.ac.jp/school/information/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校では、学校教育法、専修学校設置基準、更には各種関係法令を遵守して、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいる。とりわけ、IT教育等を行う高等教育機関として、社会で求められる人材を輩出する実践的職業教育を提供している。

こうした役割を担うに当たって、産業界、所轄庁、学生、保護者、地域社会との信頼関係をより強めていき、本校の教育活動への理解と協力、及び産業界との連携を促進するために、本校の情報を提供するとともに、最新の情報を提供できるよう努めていく。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	1、学校の概要、目標及び計画 (1)教育理念・校訓・教育方針および教育目標 (2)理事長及び校長名、所在地、連絡先等 (3)学校の沿革、歴史 (4)学校保健安全計画
(2)各学科等の教育	2、各学科等の教育内容 (1)入学者に関する受入れ方針及び収容定員、在校生数 (2)カリキュラム (3)進級・卒業の要件等 (4)学習の成果として取得を目指す資格 (5)卒業者数、卒業後の進路
(3)教職員	3、組織及び教職員の状況 (1)教職員の組織 (2)教職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	4、キャリア教育・実践的職業教育 (1)キャリア教育への取組状況 (2)実習・実技等の取組状況 (3)就職支援等への取組支援
(5)様々な教育活動・教育環境	5、様々な教育活動・教育環境 (1)学校行事への取組状況 (2)課外活動
(6)学生の生活支援	6、学生の生活支援 (1)学生支援への取組状況
(7)学生納付金・修学支援	7、学生納付金・就学支援 (1)学生納付金の取扱い(金額、納入時期等) (2)奨学金、授業料減免等の経済的支援措置
(8)学校の財務	8、学校の財務状況 (1)学校の財務状況 貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書、財産目録
(9)学校評価	9、学校評価 (1)学校自己評価報告書および評価結果を踏まえた改善方策 (2)学校関係者評価報告書および評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	10、国際連携の状況 (1)留学生の受入れ状況 (2)外国の学校等との交流状況
(11)その他	11、学則、その他の提供する情報 (1)学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページで公開

URL:<http://www.ccmc.ac.jp/school/information/>

授業科目等の概要

(工業専門課程IT・Web学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			情報と職業	ITが社会でどのように活用されているかを理解する。どのような職業・職種があって、必須となる知識・スキルを理解し、自己のキャリア設計にも活かす。	1前	36	2	○			○	○			
○			情報システム総論	一般社会において、情報システムは身近な生活に欠かせない存在になっている。情報システムの基本的知識を学習し、コンピュータの構造や仕組みを理解する。	1通	72	4	○			○	○			
○			プロジェクトマネジメント	プロジェクトとは何かを理解し、マネジメントするための基礎知識を学習する。課題として小規模システム開発のプロジェクト計画書の作成を実践する。	2後	36	2	○			○	○			
○			Linux/サーバ管理	Linuxサーバの管理者として必須となる知識を習得し、スキルを身に付ける。コマンド操作しながらサーバ管理を実践する。LPICレベル1の取得を目指す。	1前	36	2			○	○		○		
○			ネットワーク	TCP/IPの概要の理解からスイッチ/ルータの操作まで、幅広い知識を学習し、ネットワークエンジニアに必須となるスキルを身に付ける。システム全体を設計、構築する能力を養う。	1後	36	2			○	○		○		
○			情報セキュリティ	現代社会で起きているセキュリティ問題を知り、情報セキュリティの基本的概念と必要性を理解する。ネットワークを構築、運用する際に必要となるセキュリティ知識を理解する。	1通	72	4	○			○	○			
○			SQLとデータベース技術	データベースの基本概念を理解する。SQLを使ってリレーショナルデータベースの作成、検索、更新などを実習を通して修得する。アプリケーションとの連携やトランザクションを理解する。	2通	72	4			○	○		○		
○			クラウドシステム運用管理	現在、クラウドの利用が進んではいるものの、オンプレミスとクラウドが混在している状態にある。複雑化してきたシステムの運用管理を、どのように効率化するか、理解を深める。	2通	72	4			○	○		○		
○			HTML/CSS実習	HTMLとCSSの基礎を理解し簡単なWebサイトを構築する。アクセシビリティを意識し、見やすく使いやすいWebサイトになるよう工夫する。レイアウトや色彩計画を習得する。	1通	72	4			○	○		○		

○		Webシステム構築	仕様書の理解、設計書作成、プログラム実装、試験書作成及び試験実施の流れでWebアプリケーション開発、システム構築を行う。チームで作業を行い、チームワークの重要性を学ぶ。	2通	72	4				○	○							○		
○		プログラミング実習1	実習を通して開発言語の基本文法を修得する。オブジェクト指向型言語の特徴を活かし、カプセル化や継承、インタフェースなどを使ってプログラミングを実践する。	1通	180	10				○	○							○	○	
○		プログラミング実習2	ネットワークプログラミングを学習し、サーバサイドのソフトウェアを開発する。データベースやWebと連携させ、また、セキュアなシステムを構築する。	2通	108	6				○	○							○	○	○
○		システム設計	UMLはオブジェクト指向のシステムを設計・分析する際に利用される表記法である。身近な例を取り上げてUMLによる表記を学び、オブジェクト指向に基づいた分析手法を学ぶ。	2通	72	4				○	○								○	
○		モバイルシステム開発実習	「Xamarin」というiOSやAndroid上で動作するアプリ開発環境を使ってC#で開発する。サンプルアプリを例に開発を進め、その後はそれぞれ独自のアイデアでアプリケーションを制作する。	2通	72	4				○	○								○	
○		卒業制作	卒業制作発表会で発表する作品を制作する。発表作品は、WPFアプリやスマホアプリ、また、ネットワーク機器の設定項目や何らかの研究内容でも良い。	2後	72	4				○	○								○	○
○		ITビジネスと経営戦略	ビジネスの成功に直結するWebサイトは、顧客視点に立脚した「コンテンツサイド」での知識と実践技術が必要となる。教科書の学習と事例分析を並行させながら演習を行う。	2前	36	2	○				○									○
○		Webマーケティング	マーケティングミックスや5フォース分析等のマーケティングの基本を理解したうえで、数値管理を中心としたWebサイトやWebサービスを用いたWebマーケティングを習得する。	1後	36	2	○				○									○
○		著作権とコンプライアンス	著作権などの知的財産の保護に関する法律をはじめとし、企業に求められる「コンプライアンス」の仕組みを理解したうえで、「企業の社会的責任（CSR）」について考える力を養う。	2前	36	2	○				○									○
○		ビジネスアプリケーション	自分のアイディアや成果、考察、意見などをスライドに表現できること、そして他者の前で説明することができること、更に、質問やコメントに適切に受け答えできることを目指す。	1通	72	4					○	○								○
○		ビジネスコミュニケーション	社会およびビジネスの現場でのコミュニケーションについて、重要性や必要性、様々なコミュニケーション方法を演習を中心とした授業の中で習得・理解していく。	2通	72	4	○					○								○

○		日本語表現法 1	書かれている内容を的確に読む力およびまとめる力を養う。そして実際に書き、それを修正するという学習を繰り返すことで「書く力」を習得していく。	1 通	144	8	○			○			○
○		日本語表現法 2	書かれている内容を的確に読む力およびまとめる力を発展させる。そして実際に正しい日本語で表現する学習を繰り返すことで総合的な「日本語の表現法」を習得していく。	2 通	144	8	○			○			○
○		ビジネス英語	ビジネスシーンにおける定型文主体の初級英語からプレゼンテーションを行える応用英語までの「スピーキング」「リスニング」「リーディング」「ライティング」の4技能を習得する。	1 通	72	4	○			○			○
○		職業とキャリア	講義だけでなく職業人講話・職場見学などから様々なビジネスプランの特徴を理解し、自己のキャリアを設計できる能力を養う。	1 前	36	2	○			○		○	○
合計				24科目	1,728単位時間(96単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
出席率80%以上かつ全単位の80%以上を取得すること (進級条件39単位以上取得、卒業条件78単位以上取得)		1学年の学期区分	前・後期
		1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。